

# 幹部からのメッセージ

## ▶ 外国との接点で新たなことにチャレンジ!



神戸税関長

福田 敏行

昭和61年Ⅱ種 行政

税関と聞いて皆さんが思い浮かべるのは、海外旅行から帰国した際の手荷物（携帯品）の検査ではないでしょうか。この携帯品の検査は、「旅具通関部門」が行っていますが、税関の業務は非常に幅広く、輸出入貨物について申告書を審査し輸出入の許可を行う「通関部門」、貨物の輸出入の許可後に輸出入者のもとに赴いて申告が適正に行われていたかを調査する「事後調査部門」、覚醒剤をはじめとする不正薬物等の密輸入事件や関税等の脱税など関税法違反事件を調査する「審理部門」など、多岐にわたっています。

また、財務省関税局では、各税関が行う業務の総合調整や関税政策・税関行政の企画・立案、EPA等の国際交渉などを行っており、さらには、WCO(世界税関機構)といった国際機関や政府関係機関など海外で活躍している職員や他省庁で活躍している職員も多数います。

このような様々な業務を通じて、「安全・安心な社会の実現」、「適正かつ公平な関税等の賦課徴収」、「貿易円滑化の推進」という3つの使命に取り組んでいるのが関税局・税関です。

私は、2021年(令和3年)7月から神戸税関に勤務していますが、神戸税関の管轄区域は兵庫県、山口県を除く中国地方4県、四国4県の9県と広大であるとともに、太平洋、瀬戸内海、日本海に面していることから、海岸線の総延長は9税関の中で最も長く、税関業務の必要性・重要性が強く感じられる税関です。また、時計塔のある本関庁舎は、神戸市の歴史的建造物の一つに数えられていますが、阪神・淡路大震災等を乗り越え「みなと神戸」のシンボルとして市民に親しまれています。

税関は、1872年(明治5年)に「運上所」から「税関」と呼称が統一されて以来、2022年(令和4年)11月に150年を迎える長い歴史と伝統を有する組織であり、その間、我が国と諸外国との接点にあって、貿易秩序の維持、我が国経済の健全な発展に大きく貢献してきました。これは、税関が常に時代の変化やその時々ニーズに的確に対応してきたことの証であると言えます。私が勤務する神戸税関もまた、伝統を受け継ぎ、守りながらも、若手職員が中心となって新たなことにチャレンジし続けています。

多岐にわたる業務を行っている税関には、皆さんの能力を十分に発揮できる分野が必ずあると確信しています。希望に満ちた皆さんとともに、税関職員として一緒に働ける日を迎えることができることを楽しみにしています。

### 福田税関長 略歴

S61年 4月 東京税関総務部人事課採用  
H14年 7月 関税局総務課税関考査官  
H15年 7月 東京税関芝浦出張所統括審査官(通関第1部門担当)  
H17年 7月 関税局関税課税関考査官  
H22年 7月 関税局関税課課長補佐  
H23年 7月 関税局業務課課長補佐  
H26年 7月 関税局関税課税関調査室長  
H29年 7月 函館税関業務部長  
H30年 7月 門司税関業務部長  
R 1年 7月 関税局調査課長  
R 2年 7月 門司税関長  
R 3年 7月 神戸税関長

(現在に至る)

## ▶ 税関の変わらぬ使命へ



東京税関調査部次長

横田 朱実

昭和63年Ⅱ種 行政

税関には、安全・安心な社会の実現、公平・適正な関税等の賦課徴収、貿易の円滑化の推進という3つの使命を果たすべく、様々な業務があります。

調査部は、不正薬物の密輸入等関税法違反事件を調査する審理、輸出入手続や納税が適正に行われたかを通関後に確認する事後調査、密輸取締りに資する情報の分析・管理及び貿易統計等を担っています。調査や情報等によって厳重な取締りや迅速・適正な輸出入通関を支えることで、3つの使命の実現に寄与しています。

税関業務の根拠たる関税法令は、国際的な決まりに則っているものが多く、逆に、我が国税関の実務取り組みがWCO(世界税関機構)等を通じて広まり他国で採用されているものもあります。このような国際約束や情勢を反映した関税制度の立案や国際業務は、財務省関税局で行われます。

WTO(世界貿易機関)や各国税関が参加するWCO等では、貿易・関税制度にかかる協議・交渉等が多国間で行われています。WCOは国際貿易の発展のため、各国税関手続の調和化や国際協力に取り組んでいる機関で、財務省御

出身の御厨事務総局長のもと、日本の税関職員もベルギーの本部やアジア太平洋事務所等で活躍しています。

また二国間で交渉することもあり、私は関税局経済連携室で課長補佐として日ペルーや日豪等の経済連携協定(EPA)交渉に携わりました。財務省の窓口として、所管物資や関税制度の担当部課や他省庁と何度も調整し、関税率や税関手続等の交渉会合に外務省をヘッドに臨み、内閣法制局への説明にも赴きました。苦労もありましたが、合意の達成感や知る喜びは大きいものでした。

税関間の国際協力としては、関税技術協力や、密輸取締りに資する情報や取り組みの共有等があり、関税技術協力では、多くの職員が各分野の知識・経験を生かし、途上国での現地指導や日本でのセミナー等で活躍しています。

定期的な人事異動や充実した研修制度は潜在的な能力や適性を引き出してくれます。私は人事院在外研修で米国税関を知る機会をいただきました。職歴や研修を積んで励めば、関税局や海外での勤務も夢ではありません。

公務員を志す皆さんは世の中の役に立つ仕事がしたいと思っていることでしょう。私は入関

前に民間会社で勤務したことがあります。税関は、世のために仕事をしている実感を得られる職場だと思います。社会を脅かす物品の水際取締りや関税等の徴収は世界の税関に共通した任務です。仕事のやり方や働き方は今後変わっていくでしょうが、サプライチェーンがグローバル化する以上、国に出入りするモノにかかる税関の使命は大きく変化しないと思います。

志と希望を持ち、私達の仕事に関心を抱いた方は、是非税関の門戸を叩いてみて下さい。皆さんのチャレンジをお待ちしています。

### 横田調査部次長 略歴

S63年 4月 神戸税関高知税関支署採用  
H17年 7月 関税局監視課税関考査官  
H18年 7月 関税局調査課税関考査官  
H19年 7月 税関研修所研修部国際研修課長  
H20年 7月 税関研修所研修・研究部国際研修課長  
H21年 7月 関税局関税課(経済連携室)課長補佐  
H25年 7月 東京税関調査部統括調査官(輸出事後調査第1部門担当)  
H27年 7月 東京税関監視部統括監視官(CSI部門担当)  
H29年 7月 東京税関監視部特別監視官(検査総括担当)  
H30年 7月 東京税関調査部国際情報センター室長  
R 2年 7月 東京税関東京外郵便出張所次長  
R 3年 7月 東京税関調査部次長

(現在に至る)